

学校関係者評価報告書 令和4年度

項目	評価項目	評価結果・課題	課題・改善方策
(1) 教育理念・目標	・創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか	従来の教育に加え、時代の要請を取り入れ、「清く正しく美しく」の理念が実現されていたと評価する。	創学の精神と教育理念の周知に更に尽力し、教職員と学生、保護者、卒業生に広く徹底していく。それにそって教育を実行し、「清く正しく美しく」の理念の実現を行う。
	・職業とキャリアを重視した教育がなされているか	様々な企業と連携し、授業科目以外の制作に取り組むことができたことは、職業とキャリアを重視した教育に直結するものだった。	来年度も引き続き社会から求められる資質を備えた学生の育成に期待する。技術、知識とともに、自分の思い描くキャリアのために必要な資格の見直しなど、日常的に職業意識を持つよう促していく。
	・専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか	企業と連携して活動の幅を広げたことは、ニーズに応える学校づくりに努めたと評価できる。しかしコロナウイルスの影響で活動の場が少なかったことは残念である。	社会から求められている役割は、専門的な教育などの固定される部分と、イベント参加やファッションショー開催など流動的な部分とがあるものと考えられる。日々変動するニーズの汲み取りを図り、情報収集を行っていく。
	・学校の理念・目的・育人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学校の理念、将来構想などは昨年度よりは学生・保護者に周知されたが、それでもまだ不足する部分があったものと考えられる。新校舎への移転の日程など、やはり不安に思われる部分があったことは反省するべき点であり、来年度の課題である。	学校側から保護者・学生への配信ができるツールとして、マチコミ、グーグルクラスルームが活用されている。こういったツールを活用し、学校のスケジュールなどを明確に周知していくことに努める。
	・専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか	専門教科に重点を置いた教育に努め、即戦力となる人材の育成に努めたと評価できる。即戦力となる人材育成に関しては目標をさらに明確化することによって、必要なスキルなどの修得に役立てる必要がある。	専門教科に重点を置いた教育に関しては教育課程編成委員会によって策定されたカリキュラムに沿って行われれば問題ないと考えられる。特別教育活動に該当するインターンシップなどは多種の企業で行うことによって、職業についての志向とキャリア教育に役立てていくことを目標とする。
(2) 学校運営	・校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか	校務分掌に於いては、毎年課題として挙がっている。今回の自己評価でも反省の対象となっている。要因としては、窓口での振り分けが未だ明快にならないことが挙げられる。しかし前年度と比較して校務分掌のカテゴリ化は確実に進んでおり、引き続き整備を行う。	課題対策として、校務分掌に関しては前年度同様カテゴリを細分化し、係を明確化することによって教員がそれぞれ係を自認し校務に取り組みやすいように整備していくことを続ける。
	・事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか	事業計画は綿密に立てられ、グーグルカレンダーの活用によってスケジュールが明快にされた。しかしながら共通理解のもと運営されているかに関してはやや改善の余地がある。教員、職員、学校長・理事長・理事会など運営との間での情報共有を徹底することが求められる。	教職員の間での情報共有に関しては、昨年度も様々なツールの活用が改善の方策として挙げられている。運営との情報共有については、窓口となる教職員を策定し、相互の理解に努める。
	・運営組織や意思決定機能は職	意思決定機能については職員会議等で諮られ、機能してい	朝の職員会議については、円滑な業務遂行のため、月曜日の

	員会議等で諮られて納得して十分機能しているか	ると評価できる。	みを全体職員会議として策定し、その他の曜日に於いては部署での業務連絡のみとする。緊急の要件に関しては夕方など空き時間に設定し、意思決定を行っていく。
	・人事、給与に関する規程等は整備されているか	人事、給与に関する規定などは整備されていると評価する。	将来的に就業規則等の文書の電子化を進め、共有フォルダ等で管理、閲覧が出来るように整備し、安心して働ける環境づくりに努めていく。
	・業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか	地域のボランティア活動に意欲的に参加し、公民館にて地域の方々と交流するなど、密接な信頼関係が確立されたと評価できる。社会に貢献する貴重な機会であったと考える。	今後も地域のコミュニティー活動に参加し、これまで以上に信頼関係を強化する。また、様々な年齢の人々と接する機会を設けることで学生達の社会経験を積む一環とする。
	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	教育活動は様々な方法（ホームページ、SNS など）を活用しながら公開されたと評価できる。特にお仕事図鑑などは卒業生の活躍や取得した資格を広める目的で広く配布され、学校での教育活動の周知が徹底された。	公開する情報の性質、またターゲット層への効果的なアプローチを見極めつつ、教育活動に於ける情報公開は行っていく必要がある。また印刷物なども新しい情報をどんどん取り入れていく必要があるため、適時見直しを行う。
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	年2回の教育課程編成委員会は滞りなく開催され、委員からの意見を取り入れ、教育課程の編成を行った。幅広い視点からの意見を求めることで、教育課程の充実が図られたと評価する。	来年度も引き続き業界の深い知見を持つ委員からの意見を取り入れ、教育課程の編成を行っていく。また新しく選任された教育課程編成委員からも違った視野からの意見を求め、活用していく。
	・業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか	弾力的な調整とともに、教育と時間の配分は明確にされ、ニーズに応える内容になっていたと評価する。	求められているニーズ・レベルの汲み取りを適時行い、日々教育と時間の配分については研究していく。また現状に満足することなく向上と上進に取り組む。
	・学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	カリキュラムは体系的に編成され、それに沿って授業が進められた。オンラインの授業も対面型と並行して行われ、工夫・開発の面に於いても評価できる。	カリキュラムの編成については来年度も同様に行っていくことが前提である。オンライン授業も様々な形態の研究を進めていくのと同時に、対面型に於いても特殊衣装の研究、展示方法の研究など種々の試みを行っていく必要がある。
	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	例年と同様に、教育課程編成委員会で策定したカリキュラムに則り、適時カリキュラムの見直しが行われた。また見直しに伴い、内容の変更なども適宜行われた。	来年度も教育課程編成委員会を基本として、関連分野の企業・業界団体と連携してカリキュラムの作成・見直しを行い、充実したカリキュラム作成に取り組んでいく。
	・関連分野における実践的な職業教育（産学連携事業）は体系的に位置づけられているか	外部依頼（銀山温泉のくつろぎ着提案や岳温泉ゆかたファッションショー）などは被服構成実習、着付けの授業などに該当し、産官学連携事業は体系的な位置づけとして該当していた。	来年度も同様に、授業時間に影響のない範囲内で外部依頼に対応していく。また種々の産学で連携することによって、学生に実践的な経験を積ませ、キャリア教育の一助とする。
	・職業教育に対する外部関係者	職業教育に対する外部関係者からの評価は都度取り入れ	現在までの外部依頼での関わりがあった企業などから、幅広

	からの評価を取り入れているか	られているものと評価できる。意見を教育活動・教育環境に反映されている。	い意見を募ることは来年度も行っていくべきと考える。その意見を客観的なものと位置づけ、取り入れていく・
	・授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定は学則及び内規によって定められている。またいずれもシラバスによって明示され、その通りに行われている。	来年度も引き続き同様に行っていく。またシラバスはホームページにて公開され、学生も常に確認できるよう整えられているため、学生が自ら確認し、自己管理及びカリキュラム進行に役立てる。
	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	オンラインでの受験対策、またグーグルクラスルームを使用しての授業は、カリキュラム内での体系的な位置づけに該当する。	来年度も同様にオンラインでの受験対策を行うとともに、更に授業の資料などの拡充も進めていく。また新パーソナルカラー検定なども導入されるため、資料、対策問題などを充実させ、合格率向上のために寄与させる。
	・人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	カリキュラムに沿った授業を行う教員は備えられ、補充も滞りなく行われた。	カリキュラムの目標を明確化し、適時教員と講師を配置し更なる授業の充実を試みる。
	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	先端的な知識・技能を修得するための教員の研修は適切に行われていると評価できる。ただし新校舎になったものの、設備や機械は年々新しいものが出るため、設備・教員の知識・技能の継続的なグレードアップは今後も必要になってくるものと考えられる。	先端的な設備・機械としてまずはCADの導入を検討すべきである。それを指導できる教員の確保、教員研修による技能の向上などを行っていくことは来年度の課題かと思われる。
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか	前年度と比較して就職率は低減した。課題としては来年度の就職率の向上が挙げられる。	就職活動の時期を早期化し、学校に送られてくる求人情報は率先して就職希望者へ公示、早い段階で希望分野や企業の絞り込みを行う。更に履歴書の書き方、求人情報の見方などのビジネススキルの基礎の向上を目指す。
	・資格取得率の向上が図られているか	前年度よりやや低下してしまったため、就職率とともに来年度は向上が課題である。	学科及び学年で取得目標資格を定め、対策授業を行い、資格取得率向上を目指す。
	・退学率の低減が図られているか	前年度よりも退学率が上がったため、退学率の低減は大きな課題である。いずれの学校であっても退学率0%は難しいため、現状よりも低減させる方策が必要である。	入学したものの、進路変更による退学者がいたので、そういった事例を無くす為、入学前の段階でより詳しい授業内容のガイダンスを行うようにする。
	・卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	卒業生がどういった職についているかをまとめた、お仕事図鑑を発行し、在校生の卒業後のキャリア形成に活用したと評価する。	今後も定期的に卒業生の足跡を辿り、お仕事図鑑の内容の更新、充実を目指していく。その他卒業生が勤めている企業へ、就職希望者の見学を交渉し、卒業生の働く姿を見てもらいより明確に学生に将来のプランをイメージさせる。
(5)学生支援	・進路・就職に関する指導・支援は行われているか	進路指導教員を中心に、性格診断を行い、適性に合った企業の研究を進め、履歴書制作の指導、具体的な面接対策等を行った。この点は高く評価するとともに、維持を期待する。	前年度同様の対応をしていくと共に、更に自己PRの磨きこみや面接対策を行い、学校に送られてきた求人情報を早期に公開、同時に求人票の見方の指導を行う。

	・学生相談に関する体制は整備されているか	相談担当職員を決め、学生たちが相談しやすい環境を整えたことを高く評価する。	担当職員が誰なのかを学生達に周知し、より相談を活用してもらえるように働きかける。
	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	奨学金の申請など相談担当職員を置いて、随時相談に乗れるようにした。また、高等教育無償化の制度の周知を行った。	奨学金を受けている学生に対し、次年度も更新出来るよう生活指導や成績指導サポートを行っていく。
	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	今年度は例年と同様にインターンシップ、ボランティア活動を行い、支援体制自体に大きな変更はなかった。来年度は学生の希望も取り入れ、インターンシップ先の拡充などを検討する。	来年度からコロナによる規制も緩んだ為、希望する学生に対して支援を率先して行う。企業主催の活動機会の情報収集も行くとともに、インターンシップの受け入れ企業の拡大を試みる。
	・保護者会と適切に連携しているか	マチコミを活用しネット経由で迅速な伝達を行えるよう整備を進めた。	前年度、学校の引越しに際して情報の伝達が遅れてしまった事案があったので、学校関連の情報を書面他、SNSを活用しもっと早急に行うようにする。
	・卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	卒業生からのニーズを踏まえた環境づくりに関しては、卒業生からの聞き取りが進んでいるが、関係各所に諮りながら整備に努めていく必要があり、現在企業へのインターンシップなどを学校主体で進めている。	インターンシップの他、実際に卒業までに学生がどんな経験を積んでおきたいのかを調査し、そのニーズの内容を踏まえ、取得する資格や学外活動等の幅を広げていくなどフィードバックをしていく。
	・中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	中学生向けに職業体験学習などを実施し、職業教育の入り口として若い生徒に興味関心を持ってもらう活動をしている。	前年度に引き続き活動をしていくと共に、学生向けのキャリア教育についてニーズ調査をしていき、他校との連携を図る取り組みをしていく。
(6)教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	仮校舎での授業の為、施設に関しては講義室の不足などがあった。そのため今年度の施設・設備面に関しては整備が充分であったとは評価しかねる。	来年度より、新校舎での授業となるので、施設、設備に関しては充実した環境になった。今後はそれらを十二分に活用し授業内容の充実を図りたい。
	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	年1回のインターンシップは行われているが、それ以外の実習、研修については未だ新型コロナウイルスの影響もあり、積極的ではない。	来年度からコロナによる規制も緩んだ為、そういった機会を積極的に設け学生達への参加を促していく。
	・防災に対する体制は整備されているか	仮校舎施設の防災設備を習熟し、避難経路の確認並びに避難訓練を行い、各職員の役割を確認した。	基本の対応や各職員の役割確認を引き続き徹底し、新校舎への移転に伴い、防災設備も最新のものになったので設備業者からしっかりと取り扱いの説明を受け、非常時に備え職員の間で情報共有をする。
(7)学生の受入れ募集	・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか	情報提供は適切に行われていた。しかし来校者や入学生の数からすると積極的という部分が該当しないものと考ええる。高等学校への直接の訪問は効果が薄いため、代替の方法を検討する。	学校向けに発信する情報と、個人に向けて発信する情報は今現在、明確にはすみ分けされていないが、ホームページ上で高校生、教員とページを分けるなどの整備を進めている。また情報内容が古いまま放置されないよう、種々のツールを用いて積極的に発信していく。
	・学生募集活動は、適正に行われ	ネットツールを活用し、資料請求の割合が年々増加してい	ネットツールの活用は昨年度と同様に進め、それに加えてホ

	<p>ているか</p> <p>・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>・学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>るのは非常に喜ばしい。ただし来校、入学者の割合増加には横ばいの傾向が見られ、この打開が望まれる。またYouTubeなどのツールを使用するのも有用である。</p> <p>資格取得・就職状況などの情報や、教育成果は正確に伝えられたと評価する。課題としては、昨年度と同様、更に広範的に学生募集に活用する方法の確立である。</p> <p>関係部門で検討し、理事会などによって決定されているが、新校舎建設費用のための支出も、新校舎に入った学生や保護者が十分に納得できるよう設備に反映して整えていく必要がある。アンケートの結果、学納金が妥当ではないと考える保護者もいるため、まだ設備・備品等が充足していない部分があると考えられる。</p>	<p>ームページ、Instagram、YouTubeなど種々のツールを活用していく。また4月に1年間の計画を立案したものを、3か月ごとに見直し、適宜目標設定と分析、評価を行い、来校者の増加を試みる。</p> <p>学生募集活動に於いて、他校ではパンフレットなどで資格取得率を明示していることが多いため、資格取得率を向上し、パンフレットやチラシに明記するなどして活用していく。</p> <p>入学時に明示した学費より、施設充実費などが値上がりしているのは事実である。昨今の状況を鑑みて、学納金は理事会などによって決定されているが、値上がりに関して保護者との共通理解が乏しいのも理由であると分析する。今後は入念に支出・収入などのバランスを見、慎重に設定した上で、入学生・在学生・保護者への周知を図る。</p>
(8) 財務	<p>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>・財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>・財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>新校舎建設などもあるため、財務基盤となる入学者・学生数の増加には努めていく必要があるが、おおむね安定している。</p> <p>理事会・評議員会において、適宜確認を行っており、有効かつ妥当である。</p> <p>財務について会計監査が適正に行われている。</p> <p>財務の情報公開体制整備はできている。</p>	<p>入学生の増加、収入の増加を試みる。課題対策を忠実に行うことで、財務基盤の更なる安定化を目指していく。</p> <p>努力目標を定め、努めていく</p> <p>努力目標を定め、努めていく</p> <p>努力目標を定め、努めていく</p>
(9) 法令等の遵守	<p>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p>	<p>監督省庁の許認可を受け、適正かつ適切に学校運営がなされている。</p> <p>個人情報の取り扱いについては十分に注意を払い、書類・データとも適切に管理され、保護されている。トラブル防止のため、個人情報の取扱いには細心の注意を払っていると評価する。</p>	<p>努力目標を定め、努めていく。</p> <p>日々個人情報保護法等の理解・徹底に努め、個人情報の管理については教職員一同で共通の認識を持つ。また、学校関係者などにも個人情報保護の方針を伝え、不測の事態を未然に防ぐよう努める。</p>
	<p>・自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか</p>	<p>教職員による自己評価は適切に行われ、PDCAサイクルとして日々改善に取り組んだ。自己評価の分析も微細に行われていると評価する。その自己評価結果も適切な方法で公開されている。</p>	<p>引き続き自己評価、自己評価の分析を同様に行っていく。また公開の方法も同様に踏襲し、自己評価結果の公表に努めていく。</p>
(10) 社会貢献・地域貢献	<p>・学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p>成果としては、地域のボランティア活動に意欲的に参加した点である。公民館にて地域の方々と交流しながらクリス</p>	<p>仮校舎のあった地域でのボランティア活動ではあったが、周辺地域との信頼関係を築き、地域行事に参加した結果であっ</p>

		マスリース作りを行い、地元の保育所へ寄付する活動に参加したことは、地域への貢献であり、来年度も続けて取り組んでいく。	たため、同様に校舎周辺地域との関係性を深め、更なるボランティア活動の支援を推進する。
	・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）を積極的に実施しているか	中学校への出前講座など、地域に対する職業教育に、熱心に取り組んだと評価する。	来年度も職業教育、特に服飾に関する講座の裾野を広げ、地域と密接した学校運営を行っていく。
(11)国際交流	・留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか	昨年度と比較すると新型コロナウイルス感染症も比較的落ち着いてはいたものの予断を許さない状況であり、学生の受入れは難しい状況であったと評価する。来年度は積極的に取り組むべき課題である。	新型コロナウイルスの分類が5類へと移行し、感染自体、減少傾向にあるため、国外からの留学生募集を少しずつでも進めていく。そのため新規パンフレットの英訳、ホームページの拡充などを行い、募集に努める。